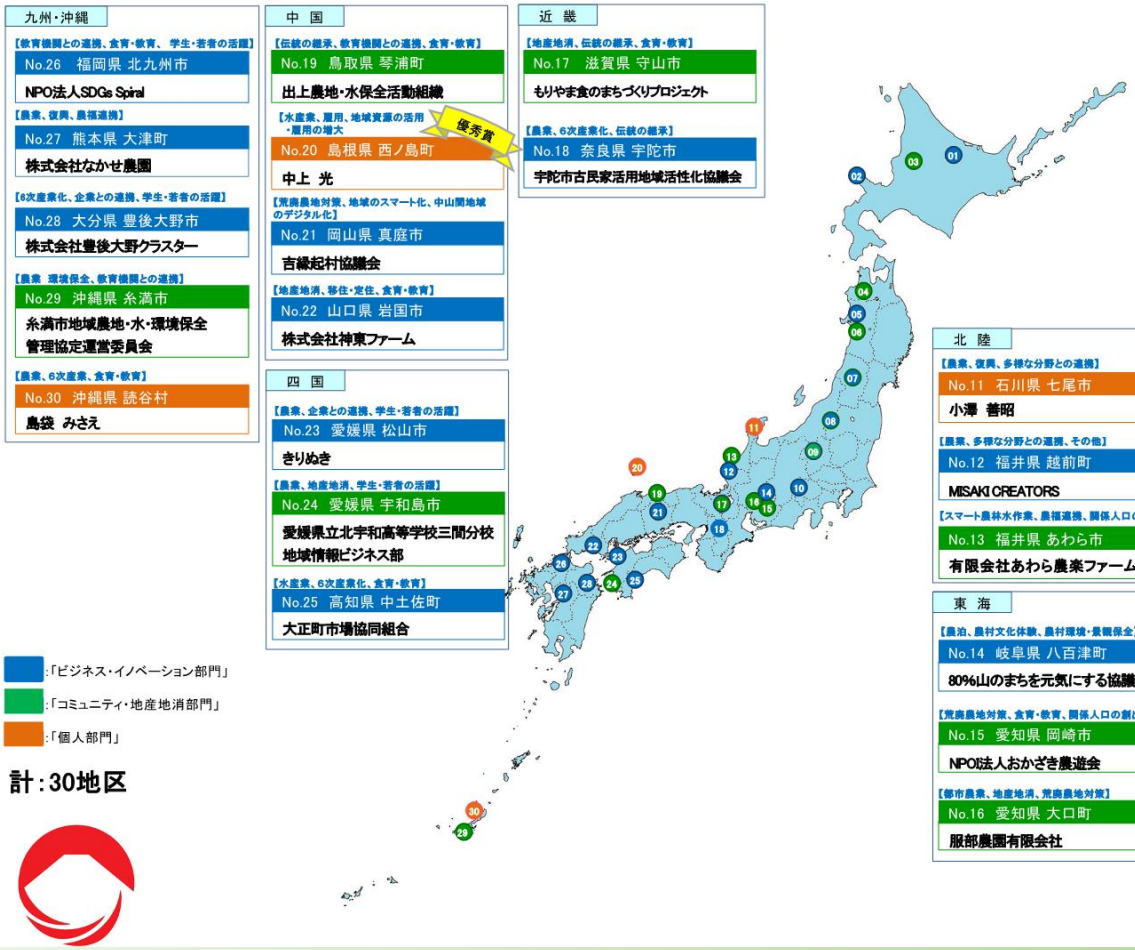
（参考）全国選定

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」第11回選定の結果

令和６年11月25日（月曜日）に、総理大臣官邸で開催された「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第11回選定）有識者懇談会において、地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良事例30地区を選定し、このうち特に優秀な事例については、グランプリ及び優秀賞として決定しました。

「ディスカバー農山漁村の宝（むら）」（第11回選定）選定地区一覧



秋田県横手市

1 Pilz株式会社

【農業×昆虫×福祉】新たな価値の創造

農業

農福連携

食料安全保障強化

椎茸生産の様子

羽化中のヘラクレスオオカブト

多肉植物育成現場の様子

青森

秋田

岩手

山形

宮城

福島

概要

椎茸生産後の菌床ブロックの廃棄物処理が問題。
令和３年に「秋田のしいたけ販売三冠王獲得事業」を利用し、椎茸の一環生産のできる施設を整備し、椎茸の生産を開始。
椎茸収穫後の菌床ブロックの廃棄を事業者に依頼していたが、廃棄された菌床の山からカブトムシの幼虫を発見したこと、また、その菌床の山には草が勢いよく生い茂っていることに気が付き、廃菌床をカブトムシ飼育に使い、カブトムシの糞を野菜の肥料に使う廃資源を有効に循環させる取組みを開始。

取組の効果

日本一美味しい椎茸づくりを目指し、菌床製造から一貫して椎茸を生産。菌床の材料には秋田県内の広葉樹のみを使用し、地下からくみ上げる深層水を用いて徹底した温度・湿度管理を実施し、秋田県知事賞を表彰されるなど高品質な椎茸となり、椎茸、菌床ブロック等の販売額は事業開始後３年間で1.4億円に増加。
自社及び近隣椎茸農家で廃棄していた菌床を、独自のプロセスでカブトムシ幼虫の餌に再加工し、販売するとともに、自社で飼育したヘラクレスオオカブトを販売。横手市のふるさと納税返礼品としても採用。

山形県西川町

② 有限会社 玉谷製麺所

山形で採れる食材をフル活用して全世界へ

輸出

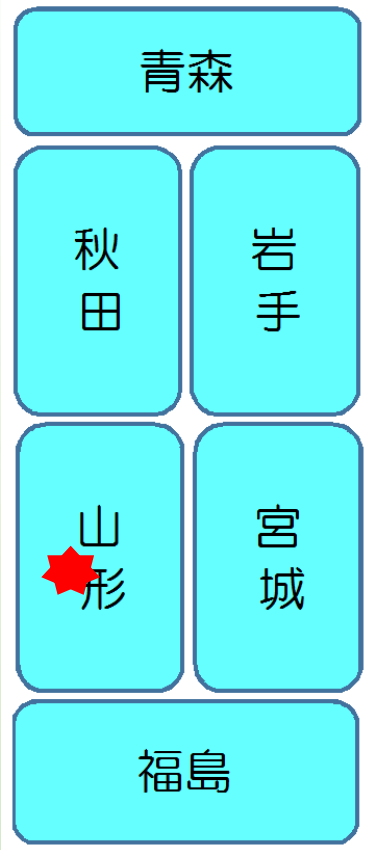
地産地消

伝統の継承

ビーツの生産者者さんと一緒に

ビーツで色を付けたサクラパスタ

摘果ラ・フランスを入れた将棋駒パスタ



概要

持続可能な農業を応援するために、本来市場に出回らない農作物の利用が重要。
東日本大震災を受け「世界でここでしか創れない食開発」を目標にかかげ、平成26年「雪結晶パスタ」を開発し、その後にお客様の声を反映したアートパスタの技術を構築。利用予定のないビーツペースト、摘果ラ・フランスなど廃棄していた素材や山形県産農産物を練込み、日本の四季や山形の産物、歴史文化を象ったストーリー性のあるアートパスタを製造し販売。

取組の効果

平成27年に野菜のビーツで桜色に染めた「サクラパスタ」を開発したことで、不揃いなビーツの利用につながり、ビーツの作付面積が２倍に増加。このサクラパスタを筆頭に世界15カ国まで輸出が拡大。
令和３年に開発した「将棋駒パスタ」は、本来廃棄されていた「摘果ラ・フランス」を利活用。130万円の農家の副収入につながったことで、営農意欲が向上し、農家を続けたいとの声も聞かれるようになる。
ラ・フランス風味でポリフェノール、GABAの有意義な成分が含まれたパスタは将棋界の盛り上がりとともに販売が増え、令和５年度は15,000袋販売。

福島県喜多方市

3 合同会社ねっか

山形で採れる食材をフル活用して全世界へ

農業

６次産業化

雇用

ノンプラスチック肥料での田植え

１８歳の酒プロジェクト

ロンドンでの試食会

青森

秋田　岩手

山形　宮城

福島

概要

只見町は東京都23区と同じ面積を有しながら、人口が3,500人で高齢化率が49%と、少子高齢化が進んでいるため、耕作放棄地の増加が課題。
酒米生産の農業と酒造業で通年雇用を生み出すため、米農家４名と醸造家１名で合同会社を設立。「日本酒」、「焼酎」の製造免許の新規交付が認められていない中、町の特産品である米を使用することで、福島県初の「特産品焼酎免許」を取得。JGAP 認証の自社ほ場で栽培した米を活用した米焼酎製造を中心としたアルコール飲料を製造。

取組の効果

吟醸香の香り高い米焼酎の製造に成功し、国内外で数多くの賞を受賞。
令和３年に、国内第１号となる「輸出用清酒製造免許」を取得し、香港をメインに販売開始。毎年順調に販売実績を伸ばし、令和５年度には8,600万円を売上。
酒造業により冬期間の雇用が生まれ、冬期の作業がない農業と併せての通年雇用ができたことから、マルチワークを支援する只見働き隊事業協同組合を含めて、U・Ｉターン者９名の雇用を創出。

青森県弘前市

4 ひろさき援農プロジェクト

りんご産業を軸とした官民共創の輪

農業

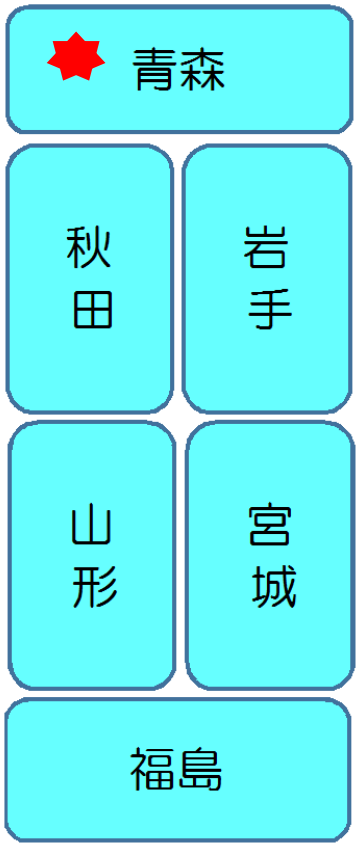
企業との連携

関係人口の増加

ツアー参加者がりんご収穫に勤しむ様子

ボランティア終了後の集合写真

企業版ふるさと納税寄附への感謝状贈呈式



概要

日本一のりんご産地であるが、農業従事者の減少や高齢化といった問題があり、りんご産業の活性化及び関係人口の増加が課題。
りんごが原料のシードルを製造・販売するニッカウヰスキー(株)及びアサヒビール(株)社員がりんご作業の援農ボランティアに令和２年度から従事。両社からの企業版ふるさと納税を財源に、両社と弘前市、(株)JTBによる官民連携の援農ツアーを実施。

取組の効果

援農ボランティアを受け入れた29戸の農家からは本事業へ参加して良かったとの声が届くとともに、ツアー後に参加者から弘前市へふるさと納税が寄附されるなど関係人口の増加にも寄与。
持続可能な活動への仕掛けのため、補助労働力不足の解消の取組として企業を認定する「ひろさき縁農サポーター認定制度」の創設につながった。
ボランティア282名の参加により人手不足に悩むりんご農家の負担が軽減されたほか、約170名の参加者が宿泊したことで農を起点として宿泊・飲食業など観光振興や経済波及効果に貢献。

秋田県横手市

⑤ 秋田県南 旭川水系土地改良区

地域保全から学ぶ 学校教育のすがた

農業

教育機関との連携

農村環境・景観保全

新一の堰頭首工見学

サツマイモの植付け

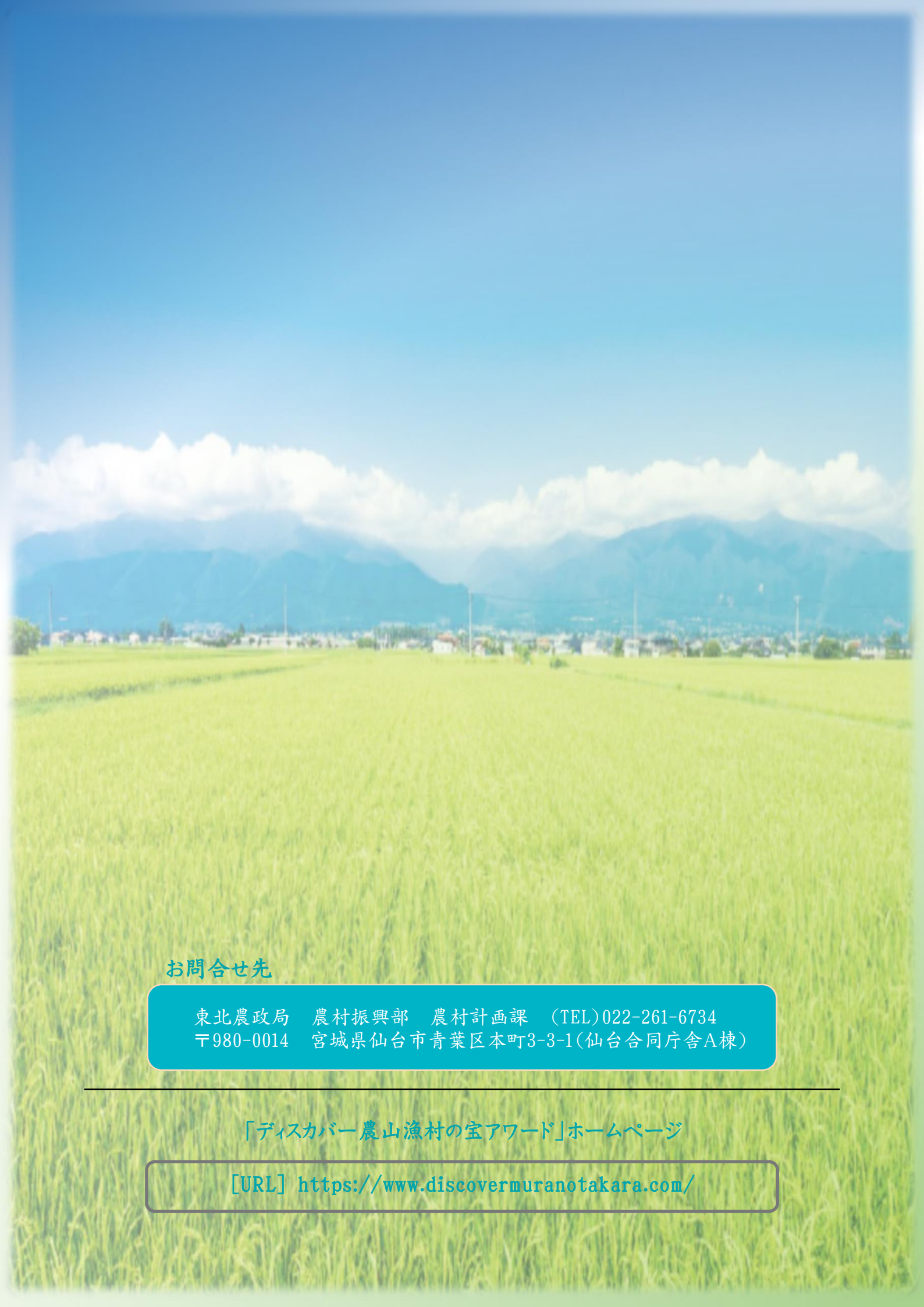
泥んこドッジボール

概要

都市化・混住化が進み、地域の農業や歴史ある農業水利施設の保全が課題。
地域住民に対して、土地改良施設や農業への理解の醸成が必要不可欠と考え、地域との関わりについて模索。地元小学校を対象として農業への理解醸成に取組むことで、10年先20年先の将来に繋がる活動が出来ると大いに期待し、平成16年より小学生を中心とした施設体験学習等をスタート。

取組の効果

管内２つの小学校児童を対象にダム～頭首工～水路を見て回る施設体験学習会を開催し、毎年100名を超える児童が参加。国営事業所との連携により、水資源の大切さ、農業水利施設の役割、地域と水の関わり、用水路への転落防止などの普及啓発を行い、理解を拡大。
長年にわたり小学生の学校農園、植栽、田植、稲刈り、地域の郷土食である横手焼きそばを身近に感じてもらう取組として焼きそばに入れるキャベツの栽培など農業体験を行っている。参加者は少しずつ増えてきており、令和５年度には2,629名が参加。



お問合せ先

東北農政局　農村振興部　農村計画課　(TEL)022-261-6734
〒980-0014　宮城県仙台市青葉区本町3-3-1(仙台合同庁舎A棟)

「ディスカバー農山漁村の宝アワード」ホームページ

[URL] https://www.discovermuranotakara.com/